

豊かな社会と限りない可能性

1. チャンスをつかむ

チャンスを捉えるためには・・・

- 「チャンス」を感じ取れる“アンテナ”がある
 - ・ チャンスが通り過ぎた時に、見逃してしまっていたら、何もできない
 - ・ 漫然と生活せずに、常に五感を働かせる
- 「チャンス」を活かせる“知識”を持っている
 - ・ 目にしたこと、耳にしたことが、重要なことかどうか、チャンスなのかどうかが判断できなければ通り過ぎてしまう
 - ・ 自分が目指している方向性に関連する情報か否かを見極められる必要がある
- 「チャンス」をとらえて、実現するまであきらめない“粘り強さ”がある
 - ・ 勤務時間中に限らず、チャンスは突然やって来る
 - ・ プライベートであった人、仕事帰りに見たシーンなどから影響を受けたり、後々深くかかわっていくことになっていったりもする

チャンスを掴むまで努力を惜しまず継続
して諦めない

今、どうにもならないと思っても社会も変化している
行き詰った時は視点を変える

- ・ 世界はどんな動向だろう（理美容の世界では、技術1つで海外に飛び出すことも不可能ではありません）
- ・ これから日本はどんなことになっていくだろう（若者活躍の機会、これから必要なこと、今できること）

変化する社会だからこそ、新しいチャンスが生まれる



若いうちは、裏方や下積みの仕事も少なくはなく、反復的な仕事が中心になることから、ややもすると、

「このまま続けていても何も変わらない」

「ずっとこのサロンにいるのは（もしくは、美容師を目指しているのは）意味がないことかもしれない」

という不安に駆られることもあります。

ここでは、成長して飛躍する自分を信じ、物事を前向きに捉え、努力を継続することを意識づけることが狙いです。

冒頭では、“チャンス”を切り口に、

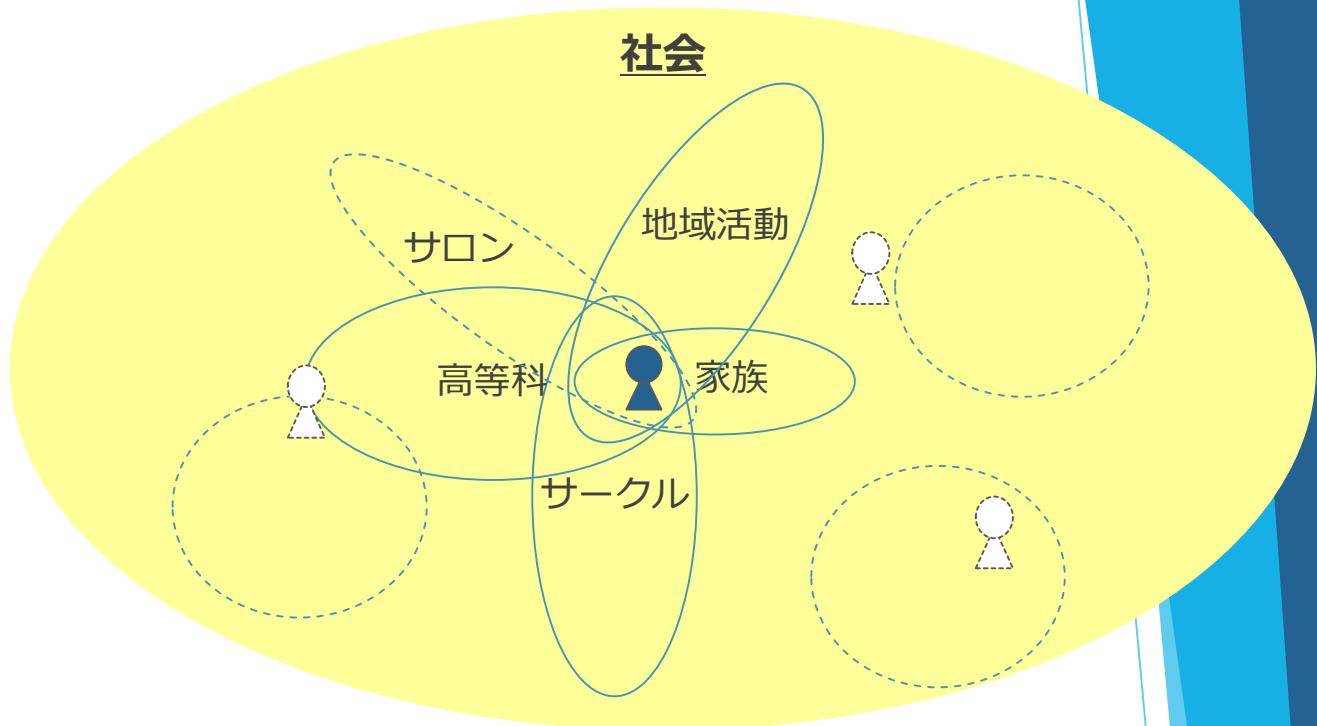
- ・ 変わらない毎日のようでもチャンスが訪れること
 - ・ 漫然と日々を過ごしているとチャンスを見逃してしまうこと
- を説明する。

3つの“C”

- ・ チャンス→チャレンジ→チェンジ

2. 社会生活を送るための基本姿勢

様々な所属グループやユニットが密接に関連し合っているのが社会。



社会の中での自分

年齢・立場・生活環境等が異なった人の集団

様々な価値観を持つ人々の気持ちを理解し、尊重することが必要

サロン

同じ道（美容師）を志す人の集団

サロンの看板の元、チームでお客様にサービスを提供し、対価を得る活動に参画

学校

同世代（自分の考えていることと、友達の考えていることが似ている。似た感性の人同士で繋がる）

学ぶことが仕事

異なる立ち位置でも、自分の役割を理解し、行動し、責任を持つこと（=自律）が求められる

- 人任せにしない
- 自分たちで考え、行動する

- 今いる自分の世界だけがすべてではない
 - 社会という大きなくくりの中で、たまたま今、いくつかのグループに属している
 - 様々な選択肢の広がりがあり、そういう繋がりに飛び込むかどうか、その中で何をするかは自分次第。
-
- 社会や所属する単位（ユニット）の一員となるには、他者を尊重しつつ、「自分の考えで自ら行動し責任を持つ主体」となることが重要。
 - それぞれのユニットに、ルールや役割や、責任がある
 - 自らの立ち位置を適切に理解して、行動することが、社会の一員になること

| | |
|----|--|
| 自律 | <p>自分で考え、自分の立てた規範に従って行動すること</p> <ul style="list-style-type: none">● 自分の行動に対する考え方があること● 自分の行動に責任を持つこと● 他人に任せらず、自分で考えて行動する |
|----|--|

3. 五感を働かせる

チャンスを掴むために必要な要素を学びましょう。

素直な心

- ◆ 偏見を持たずに物事のままに見る「素直な心」を持つことが大切
- ◆ 謙虚な気持ちを持ち、相手の言葉を素直に受け取る
- ◆ 相手に対して心を開くこと。否定的・批判的にならない。
- ◆ 素直に聞きとる人には多くの情報が集まる

主体的な姿勢

- ◆ 「受け身」の姿勢から「自ら考え、行動する人」になる
- ◆ 仕事の目的を見据えて、“今、自分がすべきこと”を自分で考えられること、考えただけでなく行動できることが重要

変化に気づく観察力

- ◆ 違いがあることを観察できることが“新たな気づき”に繋がる
- ◆ 何故、変化があったのかまで理解することで、この先の変化についても感覚を得る

五感を働かせることで外界から得る情報を増やす

目で形・色を見る

視覚

音を感じる

聴覚

味わう

味覚

手で触る

触覚

匂い・臭いを嗅ぐ

嗅覚

(評判などではなく) 実体験・生の情報に基づく

“自らの経験”から社会の変化を捉える

素直な心でないと（偏見を持っていると）、思い込みで情報を取捨選択してしまう

- 「自分とは関係のない情報だ」
- 「あの仕事はやっても何も成長に繋がらない」
- 「あの人と話しても意味はない」など

主体的な姿勢

- 学校では、“やるべきこと”の多くが学校側で決められ、まずはそれをちゃんとやることが求められた
- 社会人は、“周りがやっているからやる”という理由付けは無い
- 自分の考えで、今の行動があるという説明が出来る状態（責任）が求められる

変化に気づく観察力

- 同じカラーリング材でも髪質によって異なった色合いになった、同じお客様なのに前回とは異なっている、など、些細な“違い”や“変化”に気づけると、“学び”に繋がる
- 例えば、物事が、
 - ・（良くても悪くても）すごい！としか表現できない人
 - ・ 良い⇒悪いの2種類に区分できる人
 - ・ 良い⇒悪くはない⇒良くはない⇒悪いの4種類に区分できる人

で、同じ世界でも見え方が変わってくる



- ✓ 皆がこう言っていた
- ✓ テレビで、ネットで、こう言われている
- ではなく、自分で観察し、自分の考えを持つ

失敗を恐れない

- 何もしない人は、失敗もしないが成功もしない
- 成功と失敗は紙一重
- 失敗の中にこそ、成功（成長）のカギがある
- 失敗をバネに努力を続けることが重要（失敗で終わらせない）

ポジティブ思考

- ✓ (申し訳なかったが) 良い経験をした
- 失敗経験を、冷静に捉え、次の成長に繋げる

失敗経験

ネガティブ思考

- ✓ 自分だけが不幸、ツイていない
- 悪いことが目立つ、繰り返す

取り組むときの姿勢

- 「できる」と思って挑戦する
- 挑戦を楽しむ気持ち
- 「自分はできないのではないか」と恐れていると、失敗する確率も高まる
- 「必ず成し遂げる」という思いを強く持つことで、全力が尽くせる

「自分なら出来る」と思って全力で挑戦

成功した喜びが次のチャレンジへの原動力（好循環）

失敗した口惜しさが成長の糧（何故、失敗したんだろう）

積極的なチャレンジが、チャンスを呼び込む

- 完璧であり続けることは難しく、努力していても、失敗することもある
- 特に経験が浅いからは、失敗は避けて通れない
- 重要なのは、失敗を繰り返さずに、失敗から学ぶこと
- 前向きなポジティブ思考・プラス思考の人には、周囲の支援も得られやすい

- 取り組み姿勢がネガティブな人は、失敗を“言い訳”にしてしまいやすい。
 - やっぱり出来なかつたか
 - 何となく最初からそう思っていた

- 全力で挑戦して、成功した時に得る喜びや、失敗した時に感じる口惜しさが、自身の成長の糧となる
- 出来ないだろう（出来ないかもしれない）と思って取り組むと、それ以上「どうやつたら成し遂げられるだろうか（出来るだろうか）」と考えずに思考停止状態になる

5. ポジティブに挑戦していく力を付ける

どのように準備していれば、社会の変化に挑戦していくのでしょうか。

ハウツー (How To) 型の修得の限界

- ✓ やり方 (マニュアル) を身に付けて行動できるようになる方法
- ✓ どのようにすべきかの手順を理解し、実践できるようになる
- ✓ マニュアルが想定していなかったことに対処できない



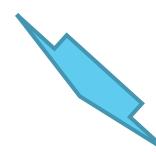
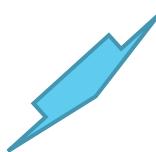
本質の理解

- 何故、その手順で行う必要があるのか
- この仕事で何を達成しようとしているのかの意味・意義・目的を知る



知識・技術を使いこなす

- 引き出しをたくさん持ち、活用できるようにする
- 戦う武器を身に付ける
- 武器は常に鍛錬しておかなければ使えなくなってしまう



マニュアルには無かった状況や
用途に向けても応用できる

How Toは基本、仕事は基本を元に臨機応変に！

ハウツー型が全面的に良くないというわけではない

特に新人のうちは、四の五の言わずに、やり方を真似て、完全にできるようになった方が良い場合もある

しかしながら、自己の成長を考えると、理由が分からずに、出来るようになった手順というのは、それ以上の広がりを生まない

HowToだけでは通用しないのが、生きた社会。常々、変わり続けている（当然ながらマニュアルも変わる）

マニュアル通りに出来る人から、マニュアルを作れる人（目的を達成するために、適切な手順を考案できる人）になる必要がある。

【本質の理解】

- ・ マニュアルが「なぜそのような手順になっているのか」を理解するところから、本質の追及が始まる
- ・ 目的や意味が捉えられれば、異なる手順でも同じ目的の実現が出来るかもしれないと、思考することが出来る

【知識・技術を使いこなす】

- ・ 知っているだけでは意味がない
- ・ 使いこなせるようになって、初めて知識が“力”になる
- ・ 知識が陳腐化しないように、最新情報の取得に努める
- ・ 新しい技術や技能についても、学び続ける
- ・ 技能が衰えないように鍛錬する